

広島もみじまんじゅうラウンド報告書



九州体育・保健体育ネットワーク研究会

令和4年2月18日(土)

「急遽、開催します！」の御案内であったにも関わらず、全国各地の小、中、高等学校、高等専門学校、大学関係者（先生、学生さん）、そして行政関係者と、多種多様な立場にいらっしゃる31名の参加者の皆さまと「ICTをいかに有効に体育・保健体育の授業に取り入れていくか」をテーマに研修を行いました。

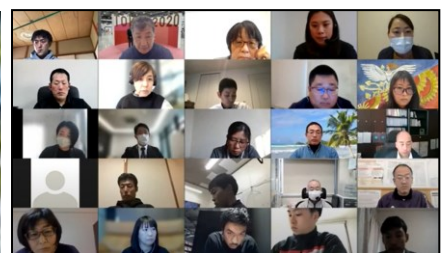
地域によって整備状況には差があるものの、子供たちの資質・能力の育成のために有効にICTをどう活用していくか、「みんなで考え、作ってやってみよう！」と、体験型の研修を試みました。「子供たちのためにわたしたちに何ができるか」を常に模索しチャレンジすること、ネットワーク、横のつながりによる情報共有で学びが深まることなど大切なことに気づき、大変充実した時間となりました。

【第1部:話題提供】

「1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の在り方について」と題して、高橋先生から話題提供をいただきました。これからの教育に求められる先進技術の効果的な活用の在り方や、GIGAスクール構想の実現に向け授業をどのように改善していくか等、ICTに係る教育の動向を分かりやすく教えてくださいました。

また、2月11日(金)に開催された「児童生徒の1人1台のICT端末を活用した体育・保健体育授業の事例集作成委員会成果報告会」での報告事例について、紹介していただきました。参加者の先生方の中には、日々の授業の中で様々に活用を試みておられる方もあり、各々の実践の具体を交流する場にもなりました。

作成した授業動画やワークシートを情報共有できるようなシステムができれば、授業内容の充実と教師の指導の効率化の両面が、機能していくのではないかといい意見も出されていました。(最後に登場した「もみ爺」は広島県民にはあまり馴染みがなくてごめんなさい・・・)



具体的な事例とセットで考えることができ、イメージが持てたという感想がありました！各々がやっている実際の活用事例についても紹介がありました。

GIGAスクール構想に関するこれまでの主な留意事項の全体像	
端末 整備された端末がクラウド活用を基本として積極的に活用されるよう、フィルタリングなど各種サービスの設定、カメラ機能やネットワーク機能の設定等を適切に行う	家庭のICT環境整備 ①経済的な理由等により通信環境が十分ではない家庭に対して、設置者や学校から貸し出すモバイルルータ等の可搬型通信機器を整備 ②学校から遠隔・オンライン教育等を行う際、教師が使うカメラやマイクなどの周辺設備を整備
校内通信ネットワーク 円滑な通信のために必要な環境が確保できているか確認する	高等学校段階のICT環境整備 保護者負担によるBYODが進める場合には、上記の学校設置者としての整備方針や考え方を丁寧に説明しながら、保護者等の十分な理解を得る
ICTの積極的な利活用 一部の地方自治体等において学習ツールを一部使用できないよう制限するといった事例が発生	端末の持ち帰り ・教員のICT活用指導力の向上 ・情報セキュリティの確保 ・情報モラル教育等の充実 ・児童生徒の健康への配慮等
校務におけるICT活用の促進 統合型校務支援システムの整備 教員が必要な情報や児童生徒の状況等を一元的に管理・共有 一教員の事務作業の軽減につながる	



【第2部:ワークショップ「指導と評価の一体化とICTの活用について考えよう!」】

ワークショップでは、中学校第1・2学年「陸上競技」を事例として取り上げ、「フェアなプレイを守ろうとすること」を見取っていくために、学習支援ソフトを活用しながら、グループで協議しました。

初めに佐藤先生から、単元構造図(例)をもとに、授業内容や「フェアなプレイを守ろうとすること」についての概念知、個別の知識、関連する教材等、授業のポイントについて説明していただきました。

学習活動	活動内容
1時間目 オリエンテーション	陸上競技は走り・投・蹴の3種類があり、それぞれの特徴を説明する。
2時間目 サッカーのルールについて考える	サッカーのルールは守るのルールと蹴るのルールがある。蹴るのルールは蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること。
3時間目 サッカーのルールについて考える	サッカーのルールは守るのルールと蹴るのルールがある。蹴るのルールは蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること。
4時間目 サッカーのルールについて考える	サッカーのルールは守るのルールと蹴るのルールがある。蹴るのルールは蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること。
5時間目 サッカーのルールについて考える	サッカーのルールは守るのルールと蹴るのルールがある。蹴るのルールは蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること。
6時間目 サッカーのルールについて考える	サッカーのルールは守るのルールと蹴るのルールがある。蹴るのルールは蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること、蹴る側の安全と蹴られる側の安全を確保すること。

2016 中学校第1学年及び第2学年 球技: 態度(公正)
フェアなプレイを守ろうとすることは、球技は、チームや個人で勝敗を競う特徴があるため、規定の範囲で勝敗を競うといったルールや相手や観客を尊重するといったマナーを守り、相手や仲間との健康を認め、フェアなプレイに誇りをもつようとする。そのため、ルールやマナーを守ることによって球技独自の楽しさや安全性、公平性が確保されること。また、相手や仲間のすばらしいプレイやフェアなプレイを認めることで、互いを尊重する気持ちが強くなることを理解し、取り組めるようにする。

概念・意味

概念知(なぜ守るのか)

- ルールを守る
 - 安全性、公平性が確保される
 - 健康を称える、良いプレーを認める
 - 互いを尊重する気持ちが強くなる

方法知(どのように高めるのか、どのように概念と具体を往還するか)

教材の工夫

- ルールを守る
 - ・簡易化されたルールを学習する機会を設ける
 - ・フェアなプレイの場面を動画などで見せる
 - ・フェアなプレイの場面を動画などで見せる
 - ・フェアなプレイの場面を動画などで見せる
- 健康を称える、良いプレーを認める
 - ・相手のプレーに感動を覚えたときの気持ちを伝える
 - ・相手のプレーに感動を覚えたときの気持ちを伝える
 - ・相手のプレーに感動を覚えたときの気持ちを伝える

個別の知識

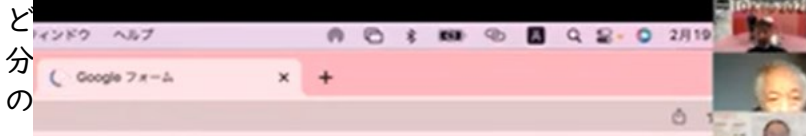
具体知(何を守るのか)

- ルールを知る
- 健康を称える
- 良いプレーを認める

単元の何時間目に、こういった学習場面で活動内容を位置付けていくのか、明確にしておくことが大切!

学習指導要領解説を確認し、「なぜルールを守ることが大切なのか(意義・意味)」「何を守るのか(具体知)」どうした教材を使って教えるのかセットします。

そして、授業場面で取り上げた時に、「何をどう問うていけばよいのか」に関してグループで知恵を出し合い、実際にフォームを作成したり、生徒になりきり、フォームに回答したりするなどの活動を行いました。



このグループは、記述内容を質的に内容の傾向を調べたり、回答の中心を絞り込みました。

自分がフェアプレイだと思うシーンはどこですか? (例: オリンピック、ワールドカップ、高校野球、フェアプレイニュースに載っていることなど)

回答を入力

今までの体育の中で、同じように感じたシーン

陸上運動のこれからの授業で、

プリント出欠確認

学習支援ソフトを有効に活用すれば、即座に生徒の反応が把握でき、支援が必要な生徒への指導につなげることができます。

話し合いをしながら文言を打ち込みながら、生徒用の回答フォームを作成していききました。

Google フォームの回答一覧画面。各回答の進捗状況が確認できる。

1. 準備がはじまるところを認めたこと。 X ○ 4

2. 相手チームのよいところを認めたこと。 X ○ 3

3. 自分自身もよいところを認めたこと。 X ○ 2

4. 仲間を励ますことができた。 X ○ 1

5. 何もなかった。 ○ 何もなかった

「『何を指導し、評価するのか』、ゴールの姿を明確にしておくことが大事である。これはこれまで大切にしてきたことであるし、これからも大切にしたい。ICTを活用していくことでより、生徒の学びの状況が視覚化でき、実態が把握できる。1人1人の学びを確かものにしていくための支援も可能になる。まずは、できることからチャレンジしたい・・・。」参加者の方からの感想です。

子供たちの資質・能力を育成するために、いかにICTを活用するか。意図を明確にして、使い方を工夫し、子供たちの確かな学びにつなげていけるよう、授業を構想していくことの必要性を感じました。もっといろんなことにチャレンジしたいと、自分自身の学びを深めていくことにも火がつけました。 皆さま、ありがとうございました! (文責: 清田)